

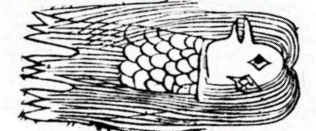
# 「コロナ禍 / 緊急事態宣言下における旅と観光についての新たな研究課題」 19:00-21:00

\*

1. 池田光穂 「問題提起：コロナ禍が変える観光研究の「プラス」の局面について」
2. 田中孝枝 「中国観光研究からみたコロナ」
3. 市野沢潤平 「コロナというリスクと観光」
4. 山下晋司 「(ポスト) コロナの時代における観光：レジリエンスの観点から」
5. \*\*

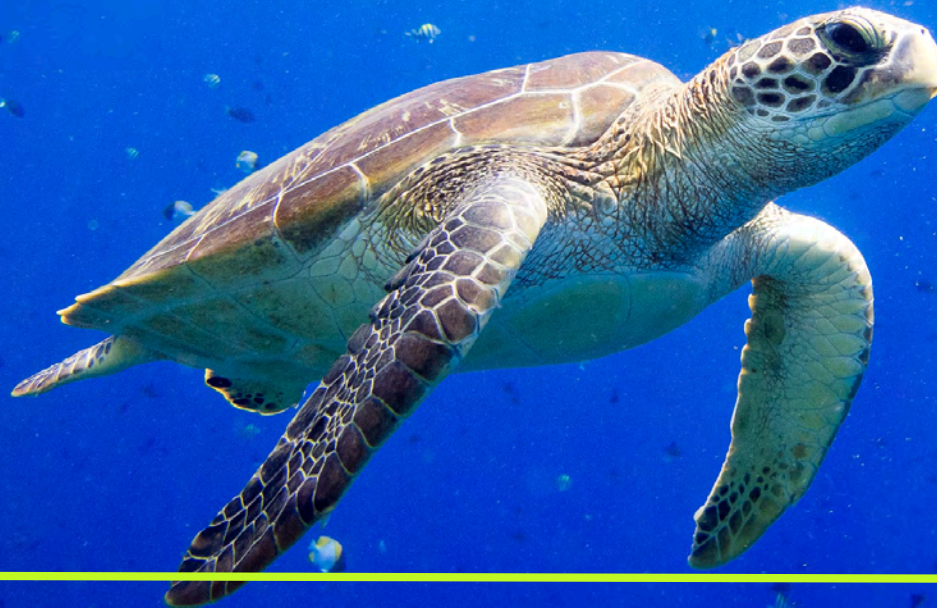
《課題》 (A) コロナ禍を旅と観光研究の観点から捉える：  
(B) END OF TOURISM?-TRUE OR FALSE? : (C) END OF  
TOURISM STUDIES?-TRUE OR FALSE? (D) 新研究課題は何か？

観光研究 弥栄 繁荣 祈願



虎狼狃退散

# コロナ禍が変える観光研究の 「プラス」の局面について



2

---

**With COVID-19, We can explore new aspect of  
tourism**

---

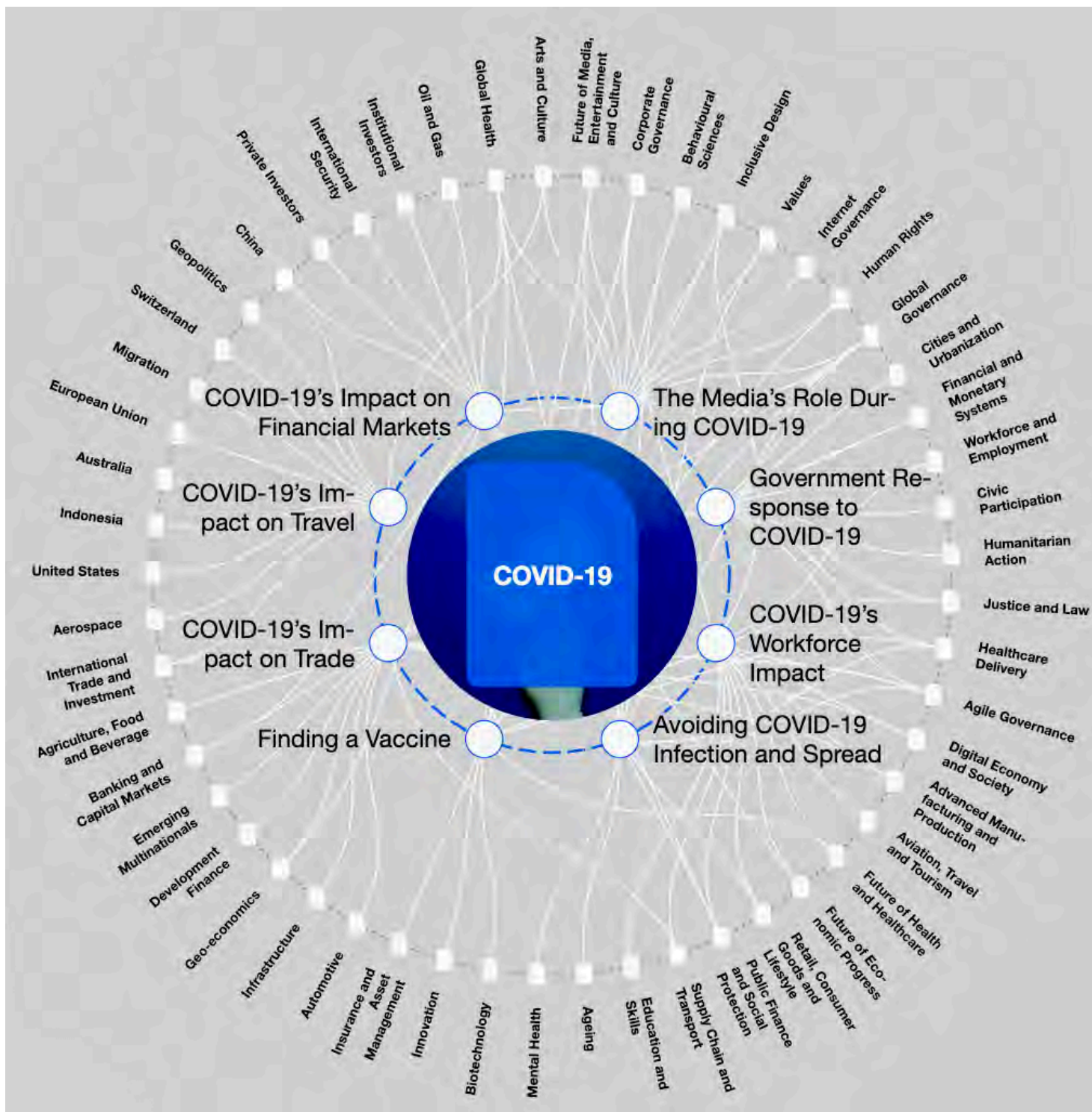
MITZUB'IXI QU'O CH'IJ, CENTER FOR THE STUDY OF CO\*DESIGN, OSAKA UNIVERSITY, TOYONAKA, OSAKA, JAPAN 560-0043 [ROSALDO@CSCD.OSAKA-U.AC.JP](mailto:ROSALDO@CSCD.OSAKA-U.AC.JP)

# 旅と観光研究におけるコロナ禍（虎狼狽禍）とは？

1. フィールドワークができない！
2. 世界から観光客が「消えた」？
3. 観光関連産業の不振と倒産
4. クルーズ船と欧州観光客へのステイグマ
5. 観光は「戻って」くるのか？
6. 旅と観光研究の未来不安







World Economic Forum "Strategic Intelligence" took kit says on "COVID-19," today, May 6, 2020

これはWEFの同心円の曼荼羅？ がなんかコロナの形に似ているなというジョーク

## 新型コロナウイルスの構造

SARS-CoV-2(新型コロナウイルスの正式名称)のさまざまな部位についての理解が、同ウイルスによる感染症「COVID-19」に対する特效薬の開発につながる可能性

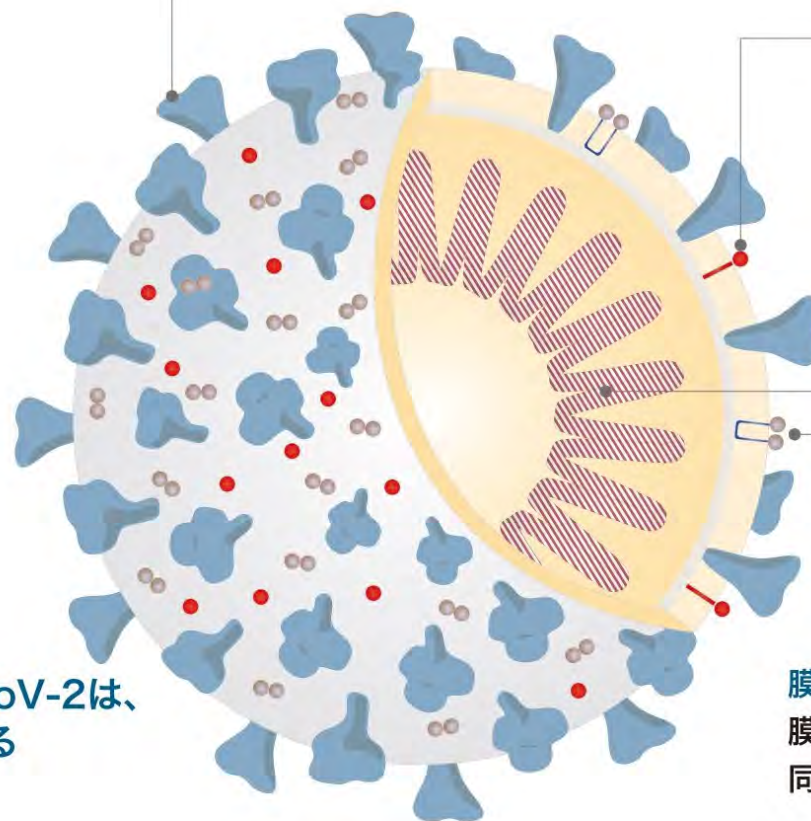
スパイク(S)

タンパク質

スパイクで宿主細胞に結合して侵入

ウイルスの名称は、  
電子顕微鏡を通して見える  
スパイクでできた輪の形に  
ちなみ、王冠を意味する  
ラテン語「コロナ」に由来

COVID-19を引き起こすSARS-CoV-2は、  
ヒトに感染することが確認されている  
複数のコロナウイルスの一つ



エンベロープ(E)タンパク質

Eタンパク質は、新しいウイルスの形成や  
出芽(宿主細胞からの放出)に関与

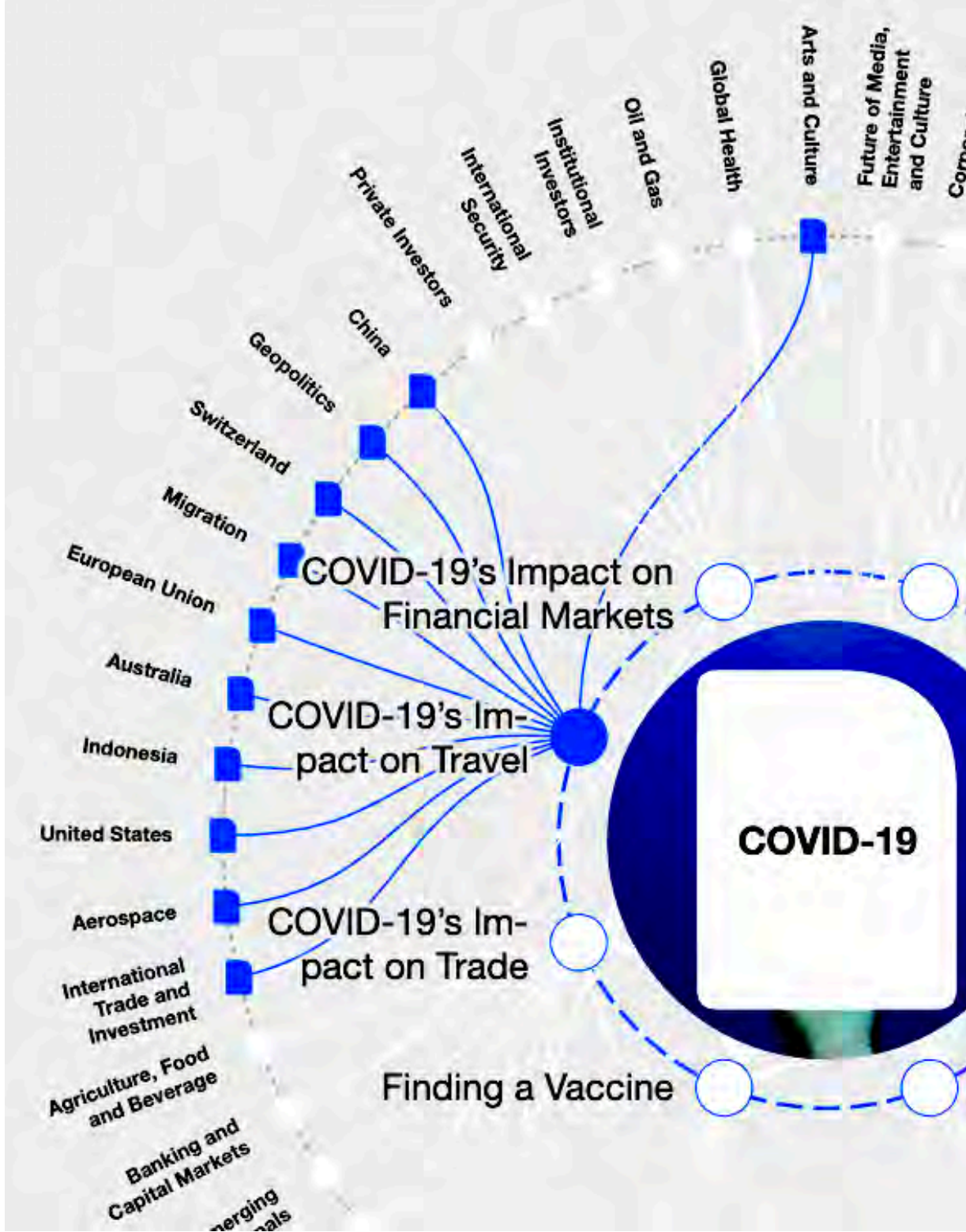
ヌクレオカプシド(N)タンパク質

ヌクレオカプシドはウイルスを  
複製するための最も重要な  
遺伝情報、RNAを取り囲む

膜(M)タンパク質

膜はすべての部位を一つにまとめ、タンパク質  
同士の配位においても重要な役割





旅行（トラベル）におけるCOVID-19のインパクトには上手によると次のようなイシュー（テーマ）があります。

- 1) 芸術と文化
- 2) 中国
- 3) 地政学
- 4) スイス
- 5) 移動・移民
- 6) EU
- 7) オーストラリア
- 8) インドネシア
- 9) 米国
- 10) 航空宇宙
- 11) 国際貿易と国際投資

※ちなみにこのフォントはBAGDAD





見えないものは存在しない / 移動しないものは観光じゃない



# 観光現象研究のパラダイム転換での3つのテーゼ (1993)

- 1・旅と観光を理解することの根本的見直しが、現在まさに求められている(=移動概念の相対化)。
- 2・観光のメディア的性格についてより調査研究されるべきである(=観光研究はメディア研究)。
- 3・このような研究を通して、現実世界における新しい旅の演出の可能性・妥当性について考えるべきである(=仮想世界と比較せよ)。





# ビジネス界は必死なんだ！弱音を吐くな研究者！



「航空機の内装を手掛けるアビオインテリアズ (<http://aviointeriors.it/>) は、3席並んだエコノミー座席で中央の座席のみが反対側を向き、各座席に保護シールドを設置したデザインを設計」  
—Business innovation under coronavirus disaster, 冠状病毒灾难下的业务创新  
[https://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/innovation\\_under\\_corona\\_disaster.html](https://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/innovation_under_corona_disaster.html)

Fig.4 The Relations between *Nature* and Cultural Production

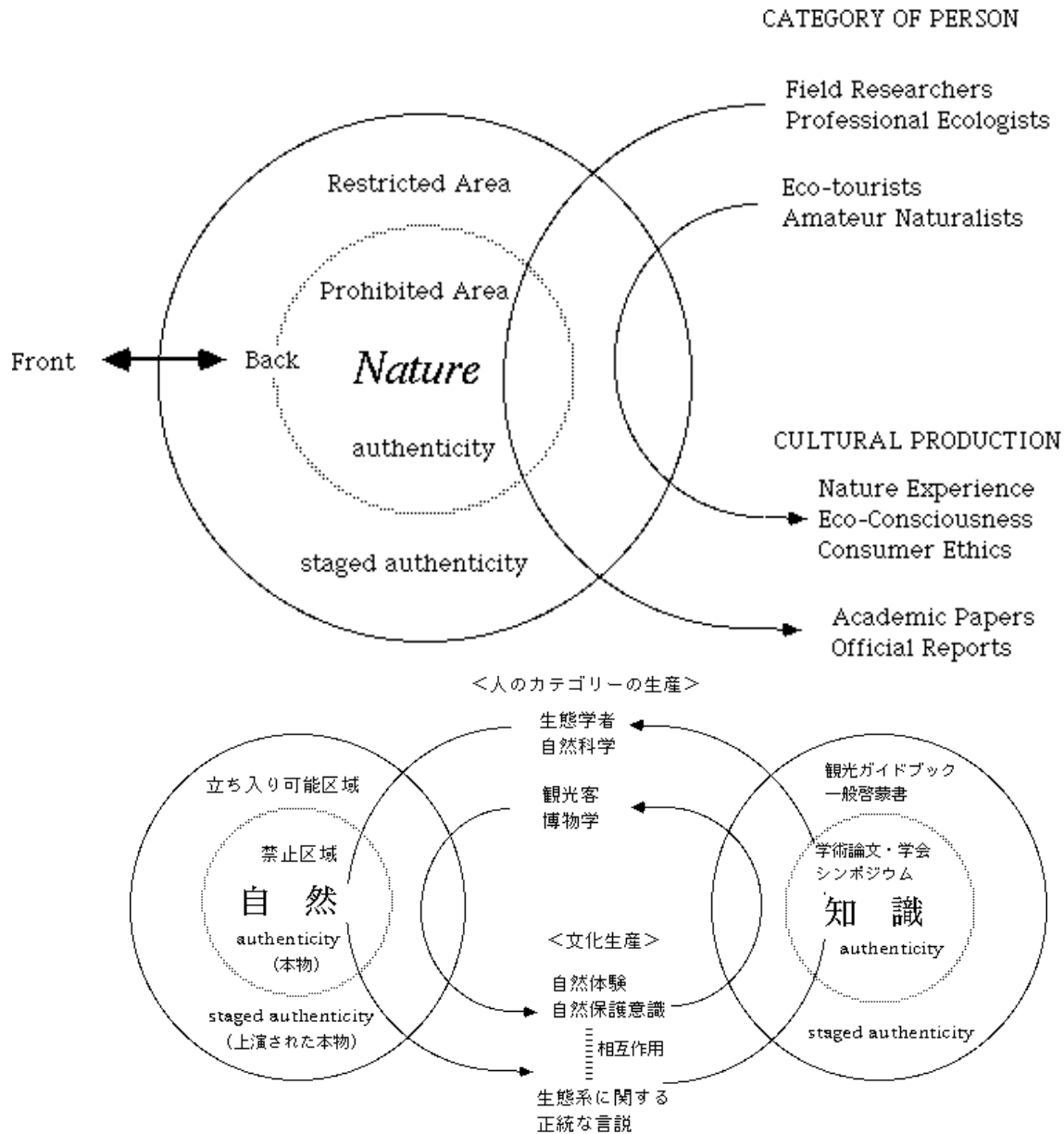
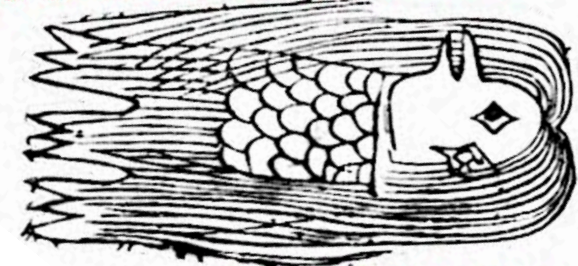


図1. <自然>表象の生産サイクル



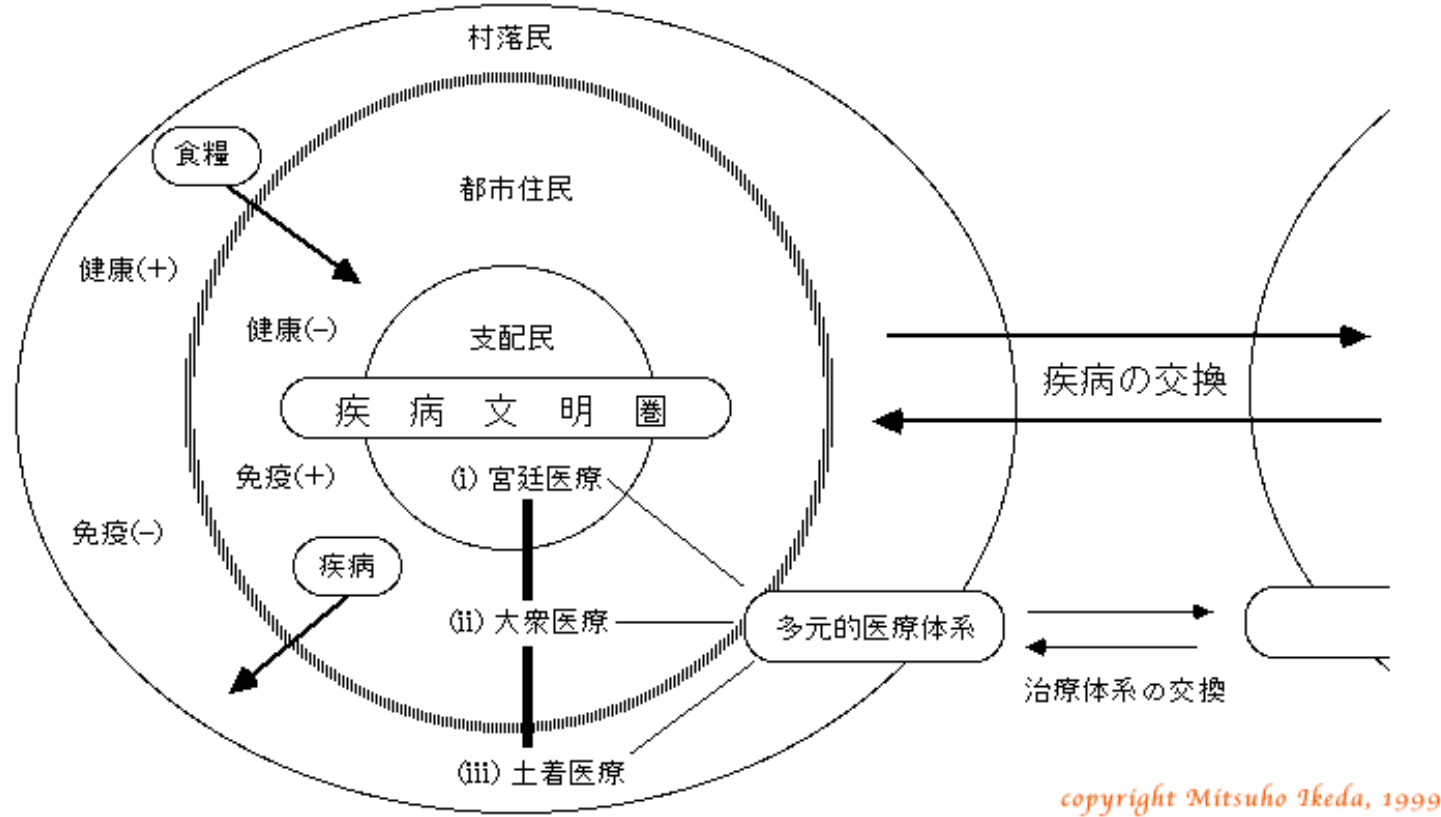
観光研究 弥栄 繁荣 祈願



虎狼 狃退散

1) 『移動の民族誌』 [共著] 岩波書店 (担当箇所「コスタリカのエコ・ツーリズム」), 岩波講座・文化人類学・第7巻, pp61-93, 1996年11月; 2) Eco-Tourism, Exploitation and the Cultural Production of the Natural Environment in Costa Rica. ラテンアメリカ学会研究年報, 第18号, pp.77-104, 1998年6月; 3) フィールド・ライフ—熱帯生態学者たちの微小社会活動に関する調査の概要—, 熊本大学文化人類学調査報告, 第2号, pp.97-135, 熊本大学文学部文化表象学教室, 1998年3月





文明圏由来の疾病の強度の感染によって生じる無人地帯

図3. 疾病文明圏と疾病交換 (模式図)

『生活文化の地域史』 (地域の世界史シリーズ, 第七巻) [共著] 川田順造・石毛直道 編, 山川出版社 (担当箇所第3部第1章「病気の文明史」), pp.258-289, 2000年3月



## 虚構観光

Fictional tourism



写真は北村 航史 (きたむら・あぶのぶ) 氏 (2018年)

解説：池田光穂

移動をしない観光のこと。フィクショナル・ツーリズムは和製英語である。旅行体験における意識変容に着目して、コンピュータや宗教的儀礼、シャーマニズムやドラッグ使用など移動を伴わない〈疑似的な移動〉について研究するために池田光穂(1993)によって提唱された。これによって観光における移動の概念を相対化し、観光現象の文化的研究に奥行きと広がりをもたせることが可能になった。インターネットなどの電腦空間では仮想観光(virtual tourism)※と限定して呼ばれている。コンピュータにおけるヴァーチャル・リアリティ技術の発展に応じて、ヴァーチャル・ツーリズムと呼ぶことができる。

《以下はチチェン・イツァ遺跡のピラミッドが壊れたという4月1日のメキシコの報道》 (→「マヤ遺跡観光」)



"Colapsa Chichén: Colapsa en cenote Castillo de Kukulkán, La pirámide de Kukulkán, en la zona arqueológica de Chichén Itzá, colapsó ayer por la noche, durante el espectáculo "Noches de Kukulkán", situación que provocó alarma entre los arqueólogos, empresarios, turistas y políticos. Alrededor de las 15 horas de ayer, según comentaron algunos turistas, se escuchó un sonido extraño en la zona arqueológica. Ahora se sabe que fue una fractura en el suelo, en las cercanías de la pirámide, que pudo haber sido causada por el peso de visitantes y vendedores ambulantes concentrados en la ubicación. El sonido se escuchó nuevamente a las 21 horas, y se hizo visible una apertura en el suelo, por lo que la zona arqueológica comenzó a ser evacuada por personal de Protección Civil, ante la mirada atónita del personal del Instituto Nacional de Antropología e Historia (INAH) y el Patronato Cultur, narraron testigos. **Un turista, quien prefirió el anonimato, declaró que la pirámide de Kukulkán comenzó a ladearse hacia uno de sus lados, hundiéndose en el cenote**



## ヴァーチャル・ツーリズム

Virtual tourism



写真は北村航史 (きたむら・あぶのぶ) 氏 (2018年)

解説：池田光穂

コンピュータにおけるヴァーチャル・リアリティ技術の発展に応じて、ヴァーチャル・ツーリズムの可能性が1990年代から浮上している。また、2020年からのCOVID-19の流行は、これまでの人々の大規模な移動をもとにしたマストツーリズムが機能を完全に停止した。ヴァーチャル・ツーリズムが、今後どのような展開を遂げるのか不明な部分がある。まず、学史的に整理してみよう。かつて移動をしない観光のことを池田はフィクショナル・ツーリズムだと予見した。フィクショナル・ツーリズムは「虚構観光」と同義語である。池田によるとフィクショナル・ツーリズムは和製英語である。旅行体験における意識変容に着目して、コンピュータや宗教的儀礼、シャーマニズムやドラッグ使用など移動を伴わない〈疑似的な移動〉について研究するために池田光穂(1993)によって提唱された。これによって観光における移動の概念を相対化し、観光現象の文化的研究に奥行きと広がりをもたせることが可能になった。インターネットなどの電脳空間では仮想観光(virtual tourism)※と限定して呼ばれている。

次の2つの必要な文献を見よ。

※電脳空間の外でも起こりうるヴァーチャル・ツーリズムの可能性

まず下の写真と、写真の下に引用した報道文面を読みたまえ。

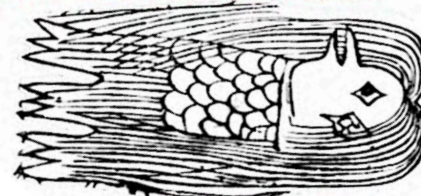


# 課題：旅と観光研究におけるコロナ禍（虎狼狽禍）

1. リアルが戻ってくるまで仮想フィールドワークで乗り切ろう！
2. TOURISTSが居なくなったEMPTY MEETING GROUNDSこそが研究対象
3. E-TOURISM, VIRTUAL TOURISM, AND MICRO-TOURISM!!
4. FUTURE TOURIST'S IDENTITY IS AVATAR'S ONE!
5. MAIN DISCIPLINES: LANDSCAPE STUDIES, COGNITIVE SCIENCE, AND PHILOSOPHICAL ONTOLOGY

結論→ 旅と観光研究の未来安泰

観光研究弥栄繁栄祈願



虎狼狽退散